

福 議 委 号
令和2年10月12日

福島町議会議長 溝部 幸基 様

経済福祉常任委員会
委員長 佐藤 孝男



所管事務調査報告書の提出について

本委員会は、令和2年9月16日福島町議会定例会9月会議において決定した、休会中の所管事務調査を終えたので、会議条例第148条の規定により、下記のとおり報告する。

記

調査事件	6 今後の吉岡温泉の方向性について
調査期間	令和2年10月9日（1日間）
出席委員	委員長 佐藤 孝男 副委員長 藤山 大 委員 平沼 昌平 委員 小鹿 昭義 委員 平野 隆雄 委員 溝部 幸基
出席説明員	町長 鳴海 清春 副町長 工藤 泰 福祉課長 鍋谷 浩行 福祉課長補佐 吉澤 裕治
議会事務局職員	事務局長 阿部 憲一 係長 福井 理央 主査 中島 和俊

[委員会意見]

調査事件 6 今後の吉岡温泉の方向性について（令和2年10月9日調査）

平成6年度建設の吉岡温泉ゆとらぎ館は、建築後26年が経過し、雨漏りや老朽機器の修繕等をしながら現在に至っているが、議会としては、常任委員会において、施設の在り方について継続的に所管事務調査を実施してきた。

この度、町から提出された関係資料に基づき今後の吉岡温泉の方向性を調査したので、調査結果を次のとおり報告する。

【論点とした調査項目・意見】

町が示した新築に係る基本的方向性は、理解した。

吉岡温泉ゆとらぎ館は開設以来、所期の目的に沿い「町民の福祉健康増進」に大きな役割を果たし、町民の憩いの場として定着している。

今後検討される施設については、少子高齢化が進む人口動態、利用実態の変化を勘案し、町民利用を主眼とし、シンプルな形状、コンパクトな規模を基本に、広く町民の声を反映させながら、後年時の経常経費圧縮に資する施設整備となることを強く望む。

また、現施設については下記の課題を抱えており、新施設建設にあたっては課題の解決に向けた検証を行ったうえで、進められたい。

（1）屋根雨漏りの原因究明について

現施設の建設当時、デザインコンペやプロポーザル方式が主流で、見た目を重視する施設建設であったことから、開設数年経過後から雨漏りが発生し、度重なる調査と修繕・改修を繰り返し、いまだ根幹的課題が解消されず現在に至っている。

地域・地形的な特性を考慮しても、長期間にわたり修繕・改修を繰り返すことは考えづらく、寒冷地の温泉施設としては設計上の問題があったものと推察される。今後、シンプル、コンパクトな施設の在り方・方向性を検討する上でも、改めて原因の究明と施設形状の検証が必要と考える。

（2）揚湯量の確保と施設運営について

平成24年度調査において、「揚湯量は、平成5年度掘削時と比べ低下しており、揚湯能力の低下がうかがえる」との報告がなされ、これに基づき、平成28年度に施設利用形態を見直し、町民の利便性を確保してきた。

揚湯総量の減少、温度の低下傾向は、温泉施設経営の基本的課題であり、今後とも、揚湯量確保に向けた適切な施設管理と、揚湯量に応じた運営形態の検討・変更等を進め、町民の福祉増進に寄与されたい。

(3) 利用者一人当たりコストの抑制について

利用者については、開設時から大幅に減少しているが、優待券利用者の割合が増え、1日平均200人を維持する状況にある。一方、経費については、増加傾向にあることから利用者一人当たりのコストが漸増傾向にあり、新施設構想にあたっては、光熱水費・人件費等経常経費を極力抑えるような先端技術の活用等、合理的な経営管理を検討願いたい。